

研修プログラム：高校生の日本語教育・指導のためのオンライン研修

「多様な言語的文化的背景をもつ高校生のための学習環境づくり」(全3回)

第2回 「ことばの学習」のリソースをデザインする—学習環境の視点から

1 ねらい — 3回の研修を通じて

小中学校では2016年度より、「特別の教育課程」として日本語指導を編成・実施するための制度が整えられ、学校現場で導入が進められてきましたが、高等学校においても2023年度より同制度が施行されました。外国人生徒等教育においては、この制度を利用して日本語指導の充実を図り、共生社会の一員として自己を実現するためのことばの力を育むことが期待されます。そこで本研修では、多様な言語的文化的背景をもつ生徒たちが、主体的に自分の未来を切り開き、社会参画するための「ことばの学習／ことばの教育」について学びます。

自分の力の発掘と未来の開拓には、生徒がもつ潜在的な力に気づかせ、さらにその力を強みとして社会的相互作用により発展させていくこと、つまりかれらをエンパワーメントすることが重要です。これを教室の学習として具現化するために、本研修では「学習環境のデザイン」という枠組みで、日本語指導について考えます。学習環境の4要素「空間」「活動」「人工物（教材・教具等のリソース）」「コミュニティ（共同体）」のうち、「活動」「リソース」「コミュニティ」の3側面から、日本語の授業をいかに設計するかを検討します。外国人生徒等が、その言語的文化的多様性、経験や培ってきた知識・技能を生かせる学習環境づくりを目指します。そのために、例えば、教科学習活動、社会的活動、キャリアにかかわる活動等と日本語学習を積極的に関連付け、教材や教具などのリソースを工夫します。そして、人間性などを土台に他者と協働的に学ぶ活動を配置します。こうした学習環境の下で、培ってきた力を活かして自分らしく学ぶ経験を通じて、社会的存在として将来の目標をもち、自律的に学び続ける力も育まれると期待されます。

本研修は、全3回のオンライン研修です。次のテーマで構成し、講義及び実践例や現場の取り組み例をもとに、「ことばの学習」のための環境デザインについて学び、話し合います。

<3回の研修テーマ>

回	テーマ
第1回	「ことばの学習」の活動をデザインする
第2回	「ことばの学習」のリソースをデザインする
第3回	学習環境としてのコミュニティをデザインする

なお、参加にあたっては、本ユニットが作成した高等学校における「特別の教育課程」としての日本語指導に関する動画（参加者限定公開）の事前視聴による事前学習を課します。

2 第2回のプログラム

「ことばの学習」のリソースをデザインする—学習環境の視点から—

(1) 概要

時間	150分（2時間30分）
----	--------------

主たる受講者（対象）	高校で学ぶ外国人生徒等、および高校生相当年齢の子どもに日本語指導・学習支援等の支援を実施している教師・支援者等
テーマ	「ことばの学習のリソース」をデザインするー学習環境の視点から
ねらいとする資質・能力*	<p><捉える力> ウ 子ども言葉の力を、日本語と母語の両言語を視野に入れ、言語能力の多面性に留意して測定したり評価したりすることができる。 ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化とともに展望することができる。</p> <p><育む力> ス 子どもの日本語の力を考慮して教材等を選んだり作成したりしてリソースを準備し、学習参加を促すことができる。</p> <p><変える力> ヒ 子どもが自身の多様性を支援にして活躍できる教育を実施し、多文化共生を促すことができる。</p>
研修内容	<p>1 学習環境デザインの考え方で、「日本語指導」のためのリソースを取り上げて検討する。リソースを、日本語を理解しその知識を得るのみならず、学習者が能動的に働きかけて新しい意味や価値を見出したり、学習者が活用して新しく創造するものととらえ、具体的な事例をもとにリソースの活用や作成を考える。</p> <p>2 事例報告（「特別の教育課程」による日本語指導を実施している高等学校）から、具体的な指導体制や指導内容について学ぶ。</p>
事前課題	<p>参加に当たっては、事前に次の研修用スライドの視聴を求める。本研修は、以下を視聴済みであることを前提として構成してある。</p> <p>東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット（2024）『高等学校における日本語指導の制度化ー「特別の教育課程」としての編成・実施について』</p> <p><1> 基本的な考え方と制度の解説 <2> 「特別の教育課程」として日本語指導の編成・実施のポイント <3> 高等学校における日本語指導の現状と課題</p>

※公益社団法人日本語教育学会（2020）『文部科学省委託事業（2017-2019年度）「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』の「豆の木モデル」にもとづく（ウェブサイト URL: <https://mo-mo-pro.com/report>）

(2) 実施計画

活動展開	具体的な内容・活動	利用した資料等
1 説明「研修テーマ、趣旨、目標」	<ul style="list-style-type: none"> ・本研修の趣旨 ・ねらいとする資質・能力 ・研修終了後の振り返りの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料 参考：山内（2020）/文部科学省（2020） 参考：本ユニット（2023）「高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン」
2 講義 「生徒それぞれに応じたリソース」 (1) リソースとしての教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・高めたい力とリソース ・教科書以外のリソースの考え方や活用事例 ・教科書のねらいとシラバスの種 	<ul style="list-style-type: none"> 参考：深澤・本田（2019） 教科書： ・『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』

<p>(2) 既存の教科書をクラスに応用するには</p> <p>(3) リソースの実践例</p> <p>3 事例報告</p> <p>4 グループワーク 使用経験のある教材・教具の紹介</p> <p>5 振り返り</p>	<p>類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造シラバスの事例 ・技能シラバス、機能シラバスの事例 <p>・既存の教科書をそのまま使うことの難しさ</p> <p>・対応のポイントと具体的事例</p> <p>・留学生向け授業で実際に使用されたリソースと実践例－教科書を用いた事例と教科書以外の事例</p> <p>報告：「特別の教育課程」による日本語指導実施校の担当者に、体制・教育課程・授業の実際について報告いただく</p> <p>質疑応答： 口頭で、チャットへの書き込みで</p> <p>小グループで話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・教材・教具の紹介 <p>アンケート記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足度 ・今後の活用のアイディア ・資質・能力の向上の有無 	<ul style="list-style-type: none"> ・『できる日本語初級・初中級』 ・『新版聞いて覚える話し方日本語生中継』 ・『改訂版中級からはじめるニュースの日本語聴解40』 ・『Intermediate Kanji Book vol.2 第4版』 <p>・事例報告者作成スライド（3 資料の2025年度研修報告事例の資料を参照のこと）</p> <p>グループ活動の課題： これまで使用した教材・教具について紹介する※※</p>
<p>参考文献・資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山内祐平（2020）『学習環境のイノベーション』ミネルヴァ書房 ・文部科学省（2020）『教育の情報化に関する手引き－追補版－』 ： https://www.mext.go.jp/content/20200707-mxt_jogai01-000003284_011.pdf ・深澤のぞみ・本田弘之（2019）『日本語を教えるための教材研究入門』くろしお出版 ・本ユニット（2023）「高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン」 ： https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_guideline.pdf <p>教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スリーエーネットワーク編（2013）『みんなの日本語初級Ⅰ第2版本冊』、スリーエーネットワーク編（2012）『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』スリーエーネットワーク ・嶋田和子監修（2024）『できる日本語初級第2版』『できる日本語初中級第2版』アルク ・ボイクマン総子・小室リー郁子・宮田敦美（2024）『新版聞いて覚える話し方日本語生中継初中級編1』くろしお出版 ・瀬川由美・紙谷幸子（2022）『改訂版中級からはじめるニュースの日本語聴解40』スリーエーネットワーク 		

・加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子・阿久津智・平形裕紀子（2014）
『Intermediate Kanji Book vol.2 第4版』凡人社

※※活動4 グループ活動（話し合い）の課題

- 1 自身が使用した教材教具について、次の点を紹介し合ってください。
 - ①対象は、どのような背景・実態の生徒でしたか。
（出身国・地域、対日歴、学習上の課題）
 - ②どのような日本語の力を高めることをねらいにしましたか。
 - ③どんな活動で、どのように利用しましたか。
 - ④教材・教具の利用により、どのような成果がありましたか。
- 2 紹介した教材の情報を、オンライン上のシートに記入してください（全体で共有のため）。

3 資料（ダウンロード可能）

① [講義 日本語学習環境としての「教材・教具等（人工物）」のデザイン](#)

[小西円 東京学芸大学](#)

② [報告資料 上園美弥 都立杉並総合高等学校](#)

③ [事前課題資料](#)

[東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット](#)

[\(2024\)『高等学校における日本語指導の制度化―「特別の教育課程」としての編成・実施について』](#)

本プログラム・資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。

資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトのURL」を明記して利用してください。

部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。